

2024年度 第1回 日本語教員研修会 アンケート結果

対面

日本語教員研修会

オンライン

公開講演会



愛知県立大学
Aichi Prefectural University

NANZAN
UNIVERSITY

性の多様性と 日本語教育

包摂的・肯定的な学習環境を考える

愛知県立大学と日本語教師養成・研修推進拠点整備事業中部ブロック(南山大学)が連携し、トロント大学で日本語教育を行っている有森丈太郎氏(愛知県立大学卒業生 日本語教員課程修了)を講師にお招きし、研修を行います。

日本語教師養成では性の多様性について考える機会はありませんが、日々の授業や学習者との関わりにおいてとても大切な観点です。この研修会では多様な学習者を包摂・肯定する学習環境作りを考えます。

開催日 2024年6月29日(土)

第1部 10:30～12:30 講演・グループディスカッション

第2部 12:30～14:30 講師を含めたランチミーティングと参加者のネットワークづくり

講師 有森 丈太郎 氏

トロント大学東アジア学科准教授 (Teaching Stream)
日本語プログラムコーディネーター

司会 東 弘子 (愛知県立大学外国語学部・教授)

■ 申込数/参加数/アンケート回答数

	対面	オンライン
申込者数	28名	129名
参加数	28名	93名
アンケート回答数	23名	47名



<https://nihongo-kyoten.com/>

主催

愛知県立大学日本語教員課程
日本語教師養成・研修推進拠点整備事業中部事務局(南山大学)

文部科学省 令和6年度 中部ブロック
日本語教師養成・研修推進拠点整備事業





対面参加者アンケート結果

1. 参加された内容についてご回答ください。 …p3
2. 第1部（講演会・グループディスカッション）は有意義でしたか。 …p3
3. 第1部（講演会・グループディスカッション）について、ご自分の仕事や生活との関連性や、役立つ部分はありましたか。 …p3
4. 第1部（講演会・グループディスカッション）で、新しく知ったこと、印象に残っていること、学んでよかったことなどを書いてください。 …p4
5. 研修会を通じて新たなネットワークができたと感じていますか。 …p5
6. 第2部にご参加いただいた方のみお答えください。第2部の（講師を含めたランチミーティングと参加者とのネットワークづくり）にはどのくらい満足されましたか。 …p5
7. 研修会を通じてネットワークができた方は、どのようなネットワークができましたか。 …p6
8. その他、講演テーマや運営などについて、コメントあれば書いてください。 …p6
9. 研修の参加資格を選択してください。 …p6



オンライン参加者アンケート結果

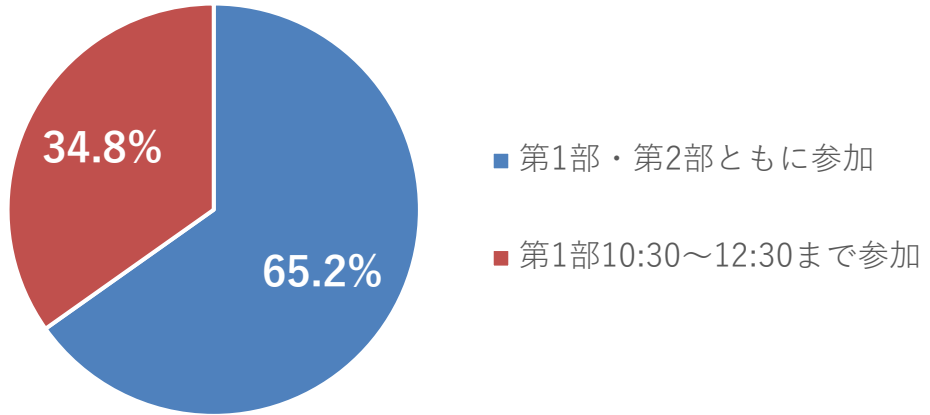
1. 講演会は有意義でしたか。 …p7
2. ご自分の仕事や生活との関連性や、役立つ部分はありましたか。 …p8
3. この講演会で新しく知ったこと、印象に残っていること、学んでよかったことなどを書いてください。 …p3
4. その他、講演テーマや運営などについて、コメントあれば書いてください。 …p10
5. 日本語教育にどのように関わっていますか？ …p11
6. 立場・身分 …p11

ご所属

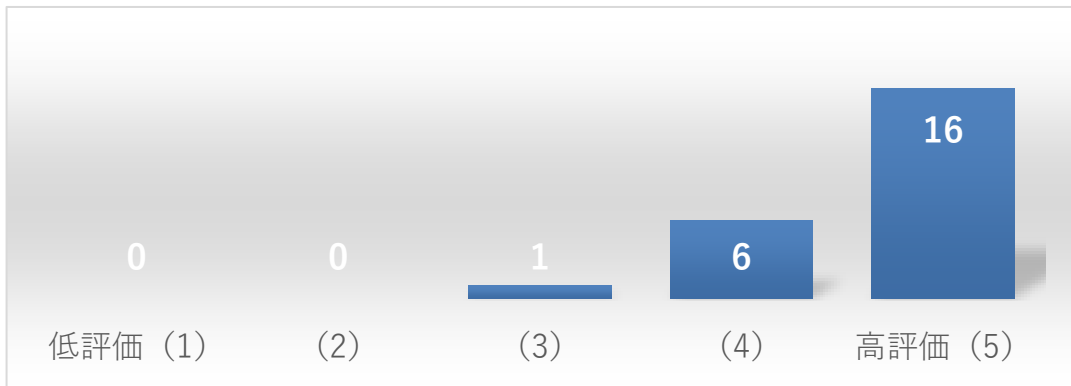


対面参加者アンケート結果

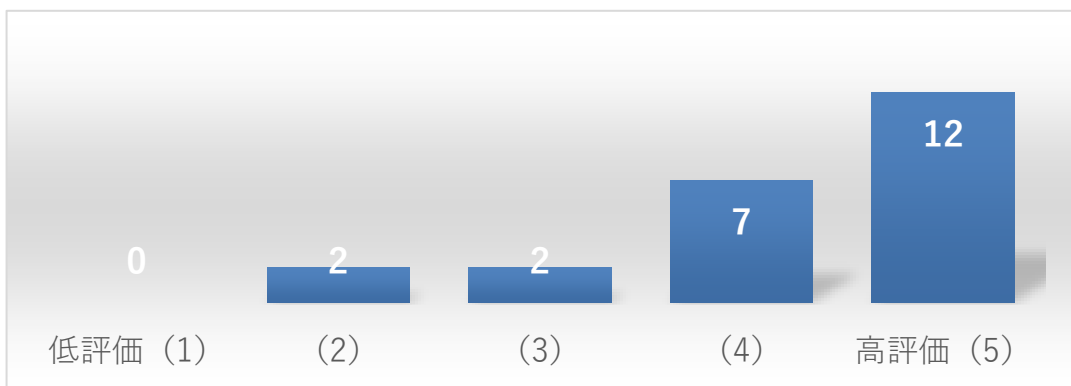
参加された内容についてご回答ください。（23件の回答）



第1部（講演会・グループディスカッション）は有意義でしたか。（23件の回答）



第1部（講演会・グループディスカッション）について、ご自分の仕事や生活との関連性や、役立つ部分がありましたか。（23件の回答）





対面参加者アンケート結果

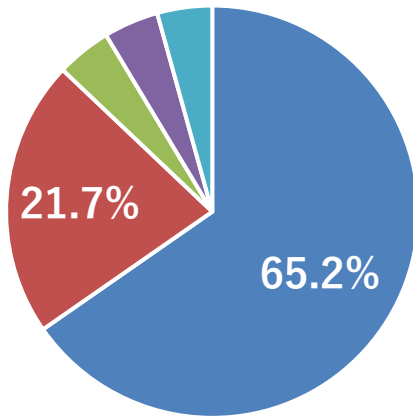
第1部（講演会・グループディスカッション）で、新しく知ったこと、印象に残っていること、学んでよかったことなどを書いてください。

1	日本語の例文などにも、ジェンダー的な視点で見ると微妙な表現が意外と多いことに気づくことができました。
2	セクシャルマイノリティな人々に対しどう接していくか、それを日本語教育にどう落とし込むのか、グループの方々のディスカッションを通して新しい知見を得ることができた。
3	教科書を批判的に捉え直し、所属機関で注意点を共有する点は、これまで欠けていることだったので必要だと思いました。
4	テキストの改訂内容
5	ディスカッション、トピック2について考えさせられました。
6	日常生活の中での「性」を考えさせられるだけでなく、教育における「性」について深く考えさせられる講義でした。性について慎重な言葉選びが必要であると講義を通して感じました。
7	多様性を受け入れたいという学習者を断罪、否定することがアイデンティティの否定につながるという視点は、少し立ち止まって考えてみれば思い至ってもよいはずなのに、講演会で言及されるまで気がつかず、自分の意識も危ういものだったと感じた。
8	講演内容に最も印象に残っている一つ目は、テキストの問題だ。自分も多くの日本語テキストを持っており、文法や印刷上の問題があるかどうかだけを見ますが、「性の多様性」の面からこの表現が適切かどうかのことを考えたことがありませんでした。テキストはそのまま使うのではなく、多角度、批判的に見るべきことがわかりました。二つ目は、自分は日本語を学んだ時、先生がこの単語は女性用の言葉ですよ、この言葉は男性用の言葉ですよと言っていました。その時はなにも考えずに、当たり前を受け止めました。自分は女だから、女性言葉を使うべきだと思いません。しかし、構築主義の考え方によって、ことばによって、主観性（自分の意識、願望など）がアイデンティティを構築されます。つまり、アイデンティティはことばに影響を与えるのではなく、ことばはアイデンティティに影響を与えるのではないかと考えられます。
9	公立高校に勤務しています。公教育におけるマイクロアグレッションについて、教員側の意識が低いと感じる場面も多いです。私自身ももう少し深く勉強してみようと思う機会となりました。
10	自己紹介の時に、呼ばれたい三人称・呼ばれたい呼び方を学生に聞くと仰っている方がいて、印象的でした。
11	Moore: 2019のSalient indicators, Insider evidence, Explicit statementsの3要因は新しく知りました。
12	マイクロアグレッションについての話がとても印象に残った。無意識下での偏見は、自分自身では気づくことが出来ないし、気づかないまま相手にストレスを与えることになる。また、「そんなことで」と思われるようなことで怒る人は、日常的にマイクロアグレッションを浴びてきて、我慢の限界を迎えてしまっている可能性がある。しかし、周りの人からは過剰反応だと捉えられ、「変わった人」というレッテルを貼られてしまうのではないと思う。具体例を知りながら自分自身の行動を見直す必要もあるし、心が不安定な相手を見たら、その背景まで考えをめぐらせるような余裕のある思考を持てるようにできるというのが理想だと考える。
13	国によって同性婚や異性愛についての考えが全く異なること(結婚できる国もあれば死刑の国もある)を、知ってるつもりではいたが、異文化の方々と接する際にもっと気をつけて話すべきだと気付かされ、今後の海外実習などの海外の方々、異文化と触れ合う際に活かしたい学びだなと感じました。
14	性の多様性をどのように教育に反映しているのか知るいいきっかけであった。とくに教材の改訂で性に関する表現に工夫がなされるようになったということが印象的だった。
15	昨年インクルーシブ教育についてゼミで研究を行ったが、「合理的配慮」という言葉の適切さについて考えたことがなかった。教科書の例文がそうであるように、既に使われている言葉についてもクリティカルシンキングの姿勢を持って扱うことが必要だと感じた。また、性自認について、体と心の性別が異なることを意識しても宗教上それが認められない環境があることは、知っておかなければならないことだと考えた。さらに、クィアな情報に接した時の無意識な反応に対し、差別的意識があるのではひく情報のアップデートができていない、関心がないと捉える考え方になるほどと思った。
16	講演の内容は西洋の教育現場にもはや「常識」なので（申し訳ありませんが）私にとっては新しい情報ではなかった。どちらかというと「日本語教育」というより「教育現場全般」に該当する内容だったと思うので、日本語教育者に特定した内容としてまとめるのに少しだけ無理があると感じた。しかし、学生たちとこの話題について議論するのはとても面白かったです。
17	同性愛が受け入れられている国とそうでない国の出身の人が同じ教室にいる状況が発生しようと聞き、たしかにそうだし配慮すべきことだと勉強になった
18	マイノリティに属する学習者への対応の複雑さと大変さ



対面参加者アンケート結果

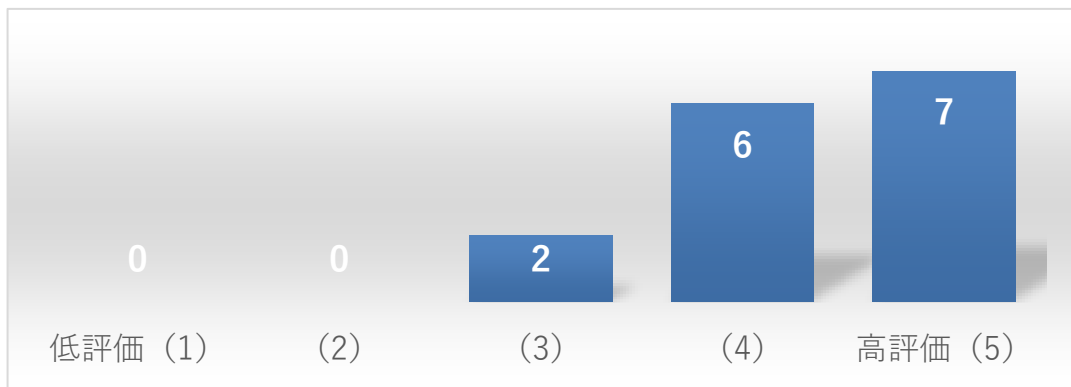
研修会を通じて新たなネットワークができたと感じていますか。 (23件の回答)



- はい
- いいえ
- 第2部お参加できませんでした。
- 第2部に参加できなかったため、あまり出来なかった。
- ネットワークと言える繋がりではないですが、様々な人との意見交換の場となって良かったです。

第2部にご参加いただいた方のみお答えください。第2部の（講師を含めたランチミーティングと参加者とのネットワークづくり）にはどのくらい満足されましたか。

(15件の回答)





対面参加者アンケート結果

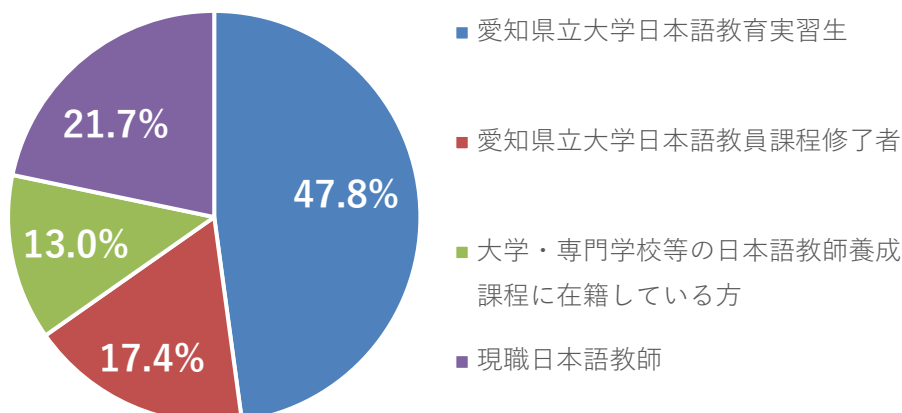
研修会を通じてネットワークができた方は、どのようなネットワークができましたか。

1	他大学や、日本語学校で働いている先生方のお話を聞くことができた。学生の立場で、地域日本語教室以外の方と話す機会がないので、有意義な経験になった。
2	就職先に関する情報をご存知の方と繋がることができた。
3	学生さんや日本語学校の方
4	現役の日本語教師の方
5	現在の愛知県立大学の実習の形を知る事が出来ました。
6	日本語学校で働くことを視野に入れている方に、勤務校で実施している会話ボランティアや講師募集について伝えられた。
7	日本語学校で働いている方とのネットワークができた。
8	日本語学校や大学で日本語を教えている方と出会いました。
9	ずっとお会いしたかった方々何人と繋がることができました。

その他、講演テーマや運営などについて、コメントあれば書いてください。

1	非常に楽しめました。第二部では1つのグループでずっと話していたため、グループ変えの時間を設けると良いと感じました。
2	今後も多文化共生、地域との連携などに関するテーマでの講演があれば積極的に参加したい。愛知県立大学の卒業生と学生との交流の機会を作ることは素晴らしい取り組みだと思うが、テーマとは関係のない同窓会的な話題に脱線してしまうこともあり、外部からの参加者としては関わりづらさも感じた。講演に関するグループワークの時間と、卒業生との語り合いの時間とは、切り離してもよかったのでは。
3	日本語教育は多様な側面を持っていると思います。そこで、今回のように「日本語教育」と何か特定のテーマを持って講演や交流の場を持つことはとても意義深いと思います。
4	本当にアットホームな雰囲気に参加しやすかったです。ありがとうございました。

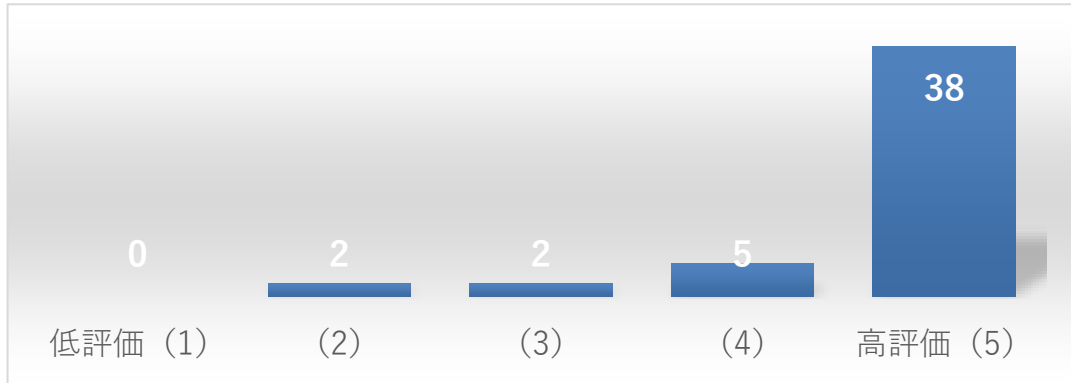
研修の参加資格を選択してください。(23件の回答)



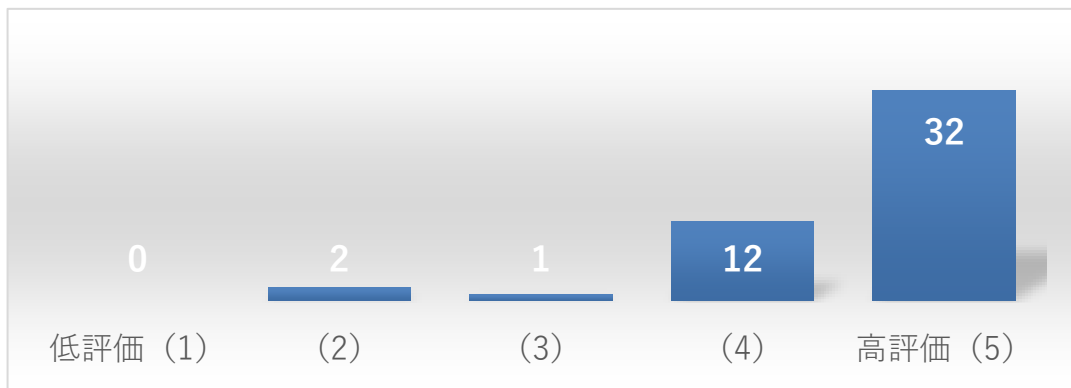


オンライン参加者アンケート結果

講演会は有意義でしたか。（47件の回答）



ご自分の仕事や生活との関連性や、役立つ部分がありましたか。（47件の回答）





オンライン参加者アンケート結果

この講演会で新しく知ったこと、印象に残っていること、学んでよかったことなどを書いてください。

1	性の多様性と日本語教育の関連、関係について、私は初めて知りました。
2	恥ずかしい話ですが、日本語の授業でクィアを意識していなかったので、今後教材や例文など考えていきたいです。
3	マイクロアグレッション、「配慮と調整」
4	教材に対する批判的な見方を例を挙げて説明いただけたことが理解を深めるのにつながりました。
5	目の前の学習者を見ているようで見ていないことに気が付きました。自分も嫌なことがあるように、学習者も日々色々なことがあるので、改めて学習者との接し方や授業内容を考えていく必要があると学びました。
6	GENKI第3版を中心とした教材の分析を示してくださったことは大変興味深かったです。現在、大学にて日本語教師の養成を行っていますが、このあたりのことにきちんと取り組んでいかなければならないことを再認識いたしました。
7	小さなことでも言われた当事者にとっては積み重なり、深く傷つけてしまうことがあるとわかりました。今一度自分の言動を振り返りたいと思います。
8	日本語の教科書の中にも性的嗜好に対しての事柄が入っていることを知ることができて良かったです。
9	マイクロアグレッション：無意識でやっているように思います。教案に、日本での性別によるらしさ、あるべき姿のような選択肢をのせていたように思います。
10	印象に残ったことと、知って良かったことは以下、2点です。 ・性の多様性について実際の経験談・他国での取り組み方。
11	多様性が認められる時代が進んでいることを学びました。自身がそれをすべて受け入れられない部分もあるかもしれないが、それを知っておくことは大事だと思いました。
12	教材を作成する時も男女差別の言葉に注意を払わなければならないということを知りました。
13	文化的価値観、宗教的信条から多様な性のあり方を受け入れがたい学習者もいる。教師がそのような学習者を断罪するような態度を取ると、今度はかれらを周辺化させる（有森2023） 上の指摘は、教室内だけでなく、私的な場面でも十分留意しなければならないと感じました。
14	使っている教材というのは決められているため、個人のアイデンティティを傷つける可能性があっても避けられないこともあります。それらを防ぐために、教師から生徒への声の掛け方に工夫を入れることで学習者が持つイメージというのも変わってくるのではないかと思います。
15	現在、オンラインで中国の生徒に対して日本語指導をしています。 中国は同性愛が事実上違法というのをスライドで見て、いろいろ考えさせられました。今後、中国の大学で日本語教師として働く予定ですが、現地の体制などに配慮しながら、学習者個人やクラスに関しても性の多様性という観点から日本語教育に取り組むべきだと感じました。
16	教材にも無意識の差別が潜んでいるということに気が付きました。留意していこうと思います。
17	終助詞や一人称の使い方について、日頃学習者に伝えるとき、これは男の人が使うことが多いよ、などと何気なく伝えてしまっていたのですが、今後伝え方考えなければならないと思いました。
18	今年4月から日本語学校で非常勤講師として留学生に初級の日本語を教えています。「国によっては同性愛者であることが明らかになると死刑になる国もある」「多様性の観点から、教科書に対しても批判的な視点を忘れない」という点が印象に残りました。無意識のうちに学生に対してマイクロアグレッションを行っていないか、誰もが参加しやすい教室活動ができているか、できるだけ他の教員と協働しつつ、常に自分に対しても俯瞰的な視点を持つように努めたいと感じました。本日は誠にありがとうございました。
19	性に関わる用語を理解した上で講演の内容を聴き、多くの学びを得ることができた。 教育では、留学生の受け入れや対応において、性について考えるべきことがたくさんあるということに気づくことができた。
20	これまで日本語の教室内でジェンダーに関連した対応で迷ってきたことや、どうするのがいいのだろうと思ってきたことへの答えがたくさん得られました。特に「ジェンダー化された日本語の扱い」、また、学生に対して日本語の教室（プログラム）が positive space であることを早い段階で示すことの大切さが印象に残りました。

次頁へつづく



オンライン参加者アンケート結果

この講演会で新しく知ったこと、印象に残っていること、学んでよかったことなどを書いてください。

21	女・男・カジュアル・フォーマルと書かれた4分割の表を提示する方法は、目から鱗だった。この方法であれば、自分で選択して言葉を選ぶことができるので非スジェンダーが違和感や不快感を抱くことはないと思う。早速自分の授業でも取り入れるつもりだ。 またマイクロアグレッションについてはほとんど知識がなかったので、今回の講演会を機に学びなおすつもりだ。
22	まず第一に、社会規範やイデオロギーを押し付けない言語教育のあり方や教室内でのコミュニケーションについて、考えて実践している人がいらっしゃるんだということを知れて、とても心強く感じました。 また、具体的にどのように包摂的な空間を作っていくことができるか、今までなかなか学ぶ機会がなかったので、非常に有意義な学びの機会になりました。例えば特に、一人称について、学生自身に考えてもらって、自由に選択ができることを明示するなど、現場で教えていらっしゃる方も、実際にすぐに講演会での学びを活かせそうだと思います。
23	言葉遣いを教えるときに、その人らしさではなく、日本人らしさみたいなものを押し付けると、困ってしまう人や学習者もいるんだということを知りました。 これから、福祉の仕事をするので、障がいを持っている人の気持ちや立場に立って考えるにあたって、役に立ちました。また、わが地域では、今年の秋から日本語ボランティア教室がスタートします。教材で、質問すると学習者がどういう気持ちになるのかわからないことがたくさんあるのですね。それを柔軟に変えてもよいということを教えてくださり、本当にありがとうございます。
24	全体的に非常に勉強になりましたが、特に学びのバリアフリー化、教材の問題点及び改善のポイント、最後のスライドの「包摂的・肯定的な学習環境に向けて 留意点」が印象に残りました。これまでの自身の授業実践をふりかえって、教材や授業中の発言に配慮が足りないことがあったと思いました。
25	LGBTQに対して肯定的かつ通常の生活ではフラットな気持ちでいるように心がけているが、もし自分が教える場にいたら、生物的な性別に対しての性別特融の言葉や言い回しを押し付けてしまうことが自分にもあるかもしれないと考えさせられました。では何が正解なのか、どう答えるべきなのか、日本語の母語話者だが日本語を教えるには豊富な経験と知識が必要であることを感じました。
26	レインボーのバッヂを、名札に、早速つけます。
27	従来の教科書について気になっていたことをまさに指摘していただき、心強く思いました。それと同時に、自分も授業で誰かを傷つけないように注意しなければと改めて感じました。著書もさっそく買わせていただきました。
28	日本語を教える外国人の方のジェンダーの許容範囲
29	今回のテーマについてあまり考えたことがなかったので、とても有意義でした。
30	多様な背景や価値観を持つ学習者が、安心して日本語を学ぶことができる環境・居場所作りのための、大きなヒントとなりました。ありがとうございました。
31	頭デッカチの机上の理論ではなく、実務で役立つ情報が満載でした。例えば、学習者に教科書を読んでもらう時など。わかりやすいようにタカシさん役は男性にケイコさん役は女性に読んでもらっていましたが、そうであることに固執しなくていいんだということ。
32	無意識の差別や、性別に相応しい話し方を押し付けることなく、個々の存在を大切に授業作りを心がけたいと思った。 学びのバリアフリー化を考え、安心して日本語や教科の学習ができるようにしていきたい。
33	こうでなくてはいけないという思い込みや無意識に自分の中に持っているステレオタイプなどの気づきがあった。 訂正された教科書を見て、モヤモヤしていたものがスッキリした感じを覚えた。 まさに多様性の時代、さらに視野を広げていきたいと思った。
34	GLPTの人などに配慮するという考え方が当事者にとって上から目線のように感じる
35	LGBTQの詳細説明と教材づくりで気を付けなければいけない点の講義がとても勉強になりました。特にLGBTQのQについては知識が無かった為、新しい知識を得られたことに感謝申し上げます。
36	本当に多様な見方考え方教え方があるということ
37	授業をする際に、本人が認識している性と、まわりが認識している性が違うこともあることを念頭において、誰もが違和感なく授業に取り組めるようにする事が大切、ということが印象に残りました



オンライン参加者アンケート結果

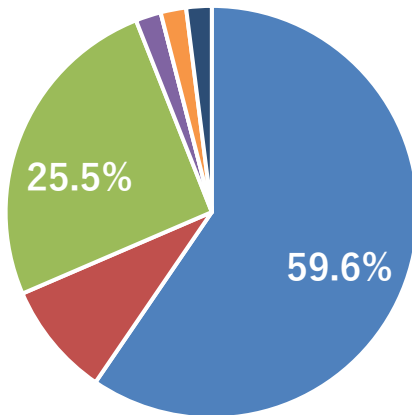
その他、講演テーマや運営などについて、コメントあれば書いてください。

1	とても有意義でした。本当にありがとうございました。
2	貴重な視点、お話をありがとうございました。
3	日本語教師をしている上で、疑問に思っていることが解決されたのと同時に、これまでとは異なる視点を持てると実感しました。参加して良かったです。ありがとうございました。
4	LGBTQ+の当事者かどうかに関わらず、誰もが自分を自分らしく表現したいという気持ちがあるかと思います。（もちろん、話す相手や状況にもよるかと思いますが）改めて、教師としてできることは、ある場面でその言葉を発した時に相手にどのような印象を与えるのか、を伝えてあげることなのだなと思いました。大変勉強になり、今後自分が心に留めておかなければならないテーマだと思いました。本日はありがとうございました
5	本日はオンラインでも公開講演会を行っていただきまして、ありがとうございました。ぜひ来年も参加させていただきます。
6	以前、有森先生が東京医科歯科大学でなさった講演も聞かせていただいて大変勉強になりました。今回もオンラインだけの参加でしたが、多くの学びがありました。スライドをpdfで共有していただけたので、必死にメモをとる必要がなく、内容に集中して聞くことができました。主催者の皆様、ありがとうございました。
7	本日は、講演会を開催してくださり、ありがとうございました。 私は愛知県立大学在学中は健康の問題から合意的配慮（調整）を利用して大学を卒業しましたが、卒業後に民間の日本語学校で働こうかと考えたときには養成講座の授業内容や雇用のあり方から、（性の多様性に限らずですが）多様な学生や教員を受け入れる土壌ができていない現場が多いのではないかと不安を感じ、日本語教育を仕事にする選択はできないままです。しかしながら、今回の講演でご紹介されたような日本語を学ぶ学習者が個人の尊厳を保つことができる空間を目指す取り組みは、やがて教員にとっても働きやすい環境づくりにつながっていくのではないかと感じました。 また、このような講演会に参加できることを楽しみにしています。
8	大変勉強になりました。ありがとうございました。
9	即現場で活かすことができる内容で、とても濃厚な講演でした。ありがとうございました。また次回もよろしくお願いたします。
10	今回は、豊川市国際交流協会の紹介で、ボランティアの立場として聴講させていただきました。が、その他に、日常は日本語教師として、愛知県立高校で日本語教育支援員の仕事をしております。今回の講演は、主に高校での活動に役立つものなので、両方とも入力できればいいのになぁ、と思いました。
11	またこのような講演会を開催いただけましたら幸いです。ありがとうございました。



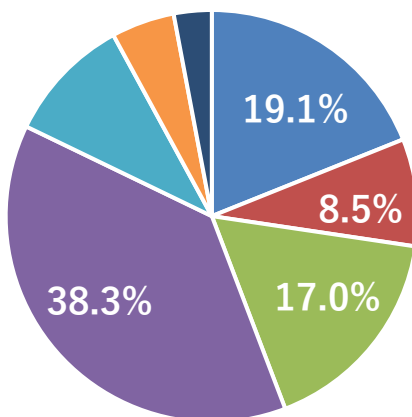
オンライン参加者アンケート結果

日本語教育にどのように関わっていますか？（47件の回答）



- 職業として
- ボランティアとして
- 大学・専門学校等で日本語教育を学んでいる/学んでいた
- 日本語教育に興味はあるが携わったことはない
- 日本語教育とは特に関係していない
- 大学で日本語教育を学んでいる 今年からボランティア
- 大学職員として

立場・身分（47件の回答）



- 学生
- 職員
- 常勤教員
- 非常勤・フリーランス教員
- ボランティア
- 会社印
- 日本語教育と関係がない一般企業の非正規労働者

ご所属

名古屋外国語大学大学院 国際コミュニケーション研究科 日本語・日本語教育コース/JPEデュケーション/愛知県立大学非常勤講師など/南山大学/名古屋外国語大学/愛知県立大学/専門学校/埼玉観光協会にほんごのへや/有限会社 教龍(ベトナム現地法人)/地域日本語教室/フリーランス(オンライン)/社会福祉法人老人介護施設内 日本語教室/ミッドリーム日本語学校 等/あいちコトノハ学院/AKP同志社留学生センター/UBC 日本語科/創価大学通信教育部 日本語教員養成コース/東京外国語大学/国際語学院/グローバルウィザス法人・オンライン事業部/個人/とよなか国際交流協会/豊川市国際交流協会/光陵中学校/創価大学通信教育部 文学部人間学科(人間学コース)/MDJ/豊田市日本語指導員、京進ランゲージアカデミー

※順不同 ※同じご所属は一つにまとめました